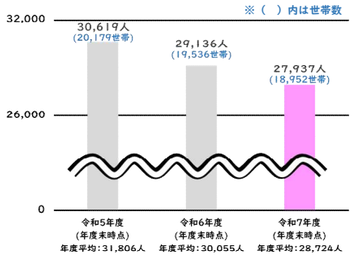
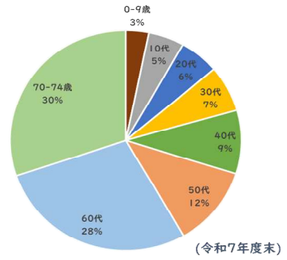
磐田市 国民健康保険
令和7年度 医療費分析の共有

令和7年度の医療等のデータから疾病や医療費について
分析しましたのでその結果をお知らせします。

使用したデータ	・令和7年4月～令和8年3月 （医療費は令和7年度事業年報作成データに準ずる） （疾病分析はKDBシステムの対象診療月に準ずる）
抽出システム	・KDBシステム（令和7年度累計） ・しずおか茶っとシステム（令和7年度累計） ・国保情報データベースシステム3.0 ・令和7年度国民健康保険事業年報 （令和7年6月～令和8年5月月報分）
備考	KDBシステム・茶っとシステム数値について 医科、調剤、DPC、歯科、介護、鍼灸 制度：国保、後期、介護 レセプトデータはレセプト電算データのみ KDBシステムで集計された最大医療資源を使用 ※医科レセプトと調剤レセプトを紐付けし点数を合算し（紐づけられない場合は医科レセプトのみを対象とします）、傷病名と医薬品・診療行為・特定機材の紐づけを行い各種マスタの単価より、傷病名ごとに金額を集計します。各レセプトで、一番高い費用を要した病名を最大医療資源病名（主病）とします。

国保被保険者の推移/年齢構成

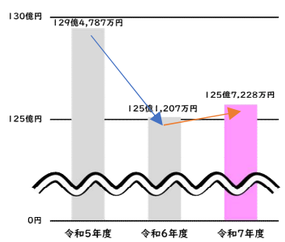




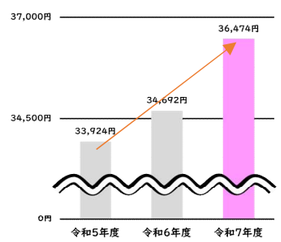
少子高齢化に伴う人口減少や社会保険の適用拡大により、国保被保険者数は減少しています。令和6年度と比較して1,199人減少しました。また、加入者の約6割は60代以上です。

医療費の推移

医療費全体



毎月の医療費（1人あたり）



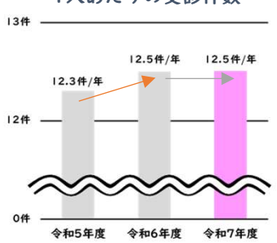
1人あたりの医療費

毎月の医療費	令和6年度比較
約36,000円	約1,800円/月 増加

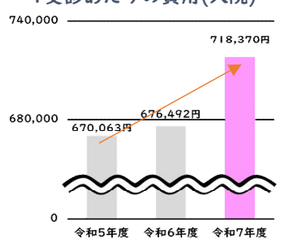
国保被保険者数が減少する一方、高齢化の進展や医療の高度化などにより医療費の総額、毎月の1人あたりの医療費は令和6年度と比較して増加しています。
※令和6年度と比較して1人あたりの医療費は約21,000円（1か月あたり 約1,800円）増加

医療費の詳細について

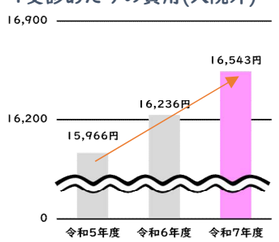
1人あたりの受診件数



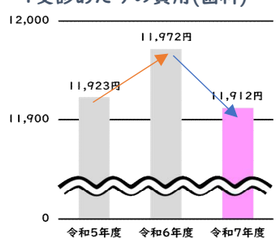
1受診あたりの費用(入院)



1受診あたりの費用(入院外)



1受診あたりの費用(歯科)

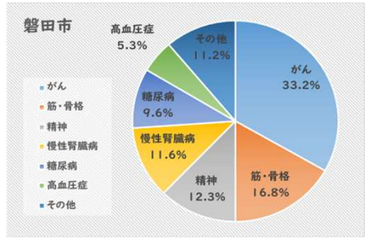


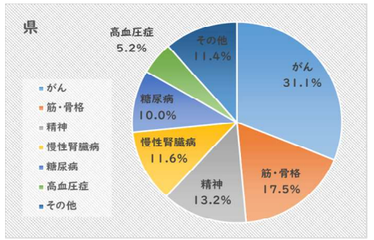
令和6年度と比較して1人あたりの受診件数の増減はありませんでした。1受診あたりの費用については、入院・入院外（外来・在宅医療など）で増加、歯科で減少しました。

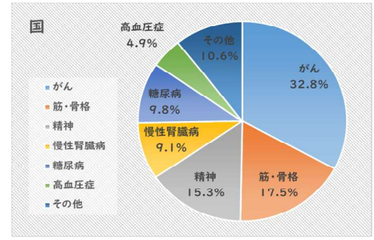
医療費にかかる疾病割合

医療費割合(市・県・国比較)

※KDBシステムより最大医療資源傷病名による抽出、調剤報酬を含む







医療費上位疾病すべてが生活習慣病関連の疾病です。医療費の疾病別割合を国及び県平均と比較すると「がん」「慢性腎臓病」「高血圧症」は同じくらいか高い結果です。

【参考】令和7年度 医療費(入院+外来)疾病ランキング
（KDBシステム医療費全体を100にしたときの% ※電子レセプト集計）

※金額については、令和7年度の事業年報医療費額で想定した場合の費用額です

1位	慢性腎臓病（透析あり）	6.2%	約7億8千万円
2位	糖尿病	5.2%	約6億5千万円
3位	関節疾患	3.3%	約4億1千万円

4位	高血圧症	3.0%	約3億8千万円
5位	統合失調症	2.8%	約3億5千万円
6位	不整脈	2.6%	約3億3千万円
7位	肺がん	2.5%	約3億1千万円
8位	脂質異常症	2.1%	約2億6千万円
9位	うつ病	1.9%	約2億4千万円
10位	乳がん	1.7%	約2億1千万円

生活習慣病関係について

※しずおか茶っとシステムより最大医療資源傷病名による抽出

予防可能な生活習慣病にかかる該当者数と費用に ついて（磐田市 疾病該当者率ベスト3）

1位 高血圧症
2,267人 3億円超
（該当者率：約 7.9%）
※ 国保被保険者100人に約8人が該当

2位 糖尿病
1,793人 6億円超
（該当者率：約 6.2%）
※ 国保被保険者100人に約6人が該当

3位 脂質異常症
1,636人 2億円超
（該当者率：約 5.7%）
※ 国保被保険者100人に約6人が該当

【参考】全体
約6,000人
（該当者率：約 20.9%）
R7：約 15億円
※ 国保被保険者の10人に約2人が該当

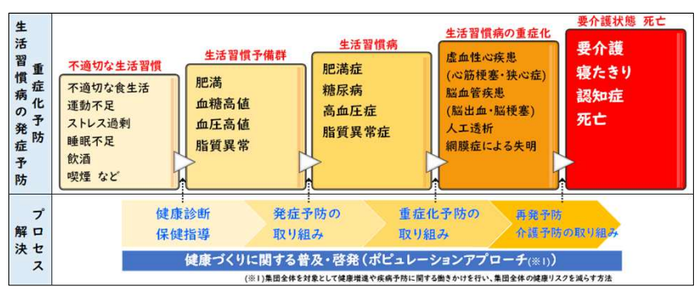
【参考】生活習慣病に関連する病気はどれくらいの医療費がかかっているか？
（1人あたりの年間医療費概算と年度末(令和8年3月受診)患者数）

糖尿病	高血圧症	脂質異常症	高尿酸血症	脂肪肝	動脈硬化症	脳出血	脳梗塞	狭心症	心筋梗塞
1,793 人	2,267 人	1,636 人	35 人	29 人	25 人	11 人	147 人	148 人	18 人
約 34万円	約 15万円	約 14万円	約 12万円	約 28万円	約 58万円	約 852万円	約 120万円	約 70万円	約 319万円

※生活習慣病に関する病気は上記疾病以外にもあります
※実際には様々な病気や治療が複雑に重なり医療費は1人1人違います
※令和7年度の医療費に対して、年度末(令和8年3月受診)の患者数で算出した目安金額です

あとがき

「医療費」という言葉には、病気や高齢化といったネガティブな印象がつきまといがちです。
しかし、そこには「健診によってリスクを早期に発見し、重症化する前に治療する」という、未来に向けた積極的な使途も含まれています。
検診を受け、早期に手を打つことで、将来の健康リスクを劇的に軽減できる可能性があるのです。



「早めの健診、早めの治療。未来も、医療費も変わります。」
日頃から健康管理を意識していきましょう